

横浜橋通商店街協同組合及び六角橋商業協同組合への 現場訪問の結果について

10月4日（木）の「黒岩祐治が行く！神奈川の現場」では、横浜市南区の横浜橋通商店街と同神奈川区の六角橋商店街を視察し、併せて関係者と意見交換を行いました。両商店街は、地元の方々の生活を支える買い物の場であるとともに、時代に対応した柔軟な取り組みやにぎわいづくりにより、広い範囲からお客様を呼び込んでいます。

【横浜橋通商店街】 商店街内を視察

「粋な下町よこはまばし」として、賑わいを見せてきた商店街です。戦前から80年以上にわたり、お客様の日用品や食料品などに対するニーズに応じてきました。

昼時の人で賑わう商店街を歩いて視察しました。



- ①「角守青果店」では、野菜などが種類も豊富に所狭しと並んでおり、店の皆さんも元気いっぱいでした。
- ② 呉服店「あさひや本店」では、商店街とも関わりの深い「三吉演芸場」に出演している役者の衣装なども作っているそうです。

関係者との意見交換

地域に根ざした商店街として活発な活動を行っている状況や、商店街の名誉顧問である落語家桂歌丸師匠とのつながりなどについて、意見交換を行いました。



【六角橋商業協同組合】

関係者と意見交換

一時、空き店舗が約3分の1にまでなった危機感から、「ほかに無いことをやる」というコンセプトで「ドッキリヤミ市場」「商店街プロレス」「ストリート結婚式」などを企画し、商店街のにぎわいやまちの活性化をもたらしている状況や、学生など若い世代とのコラボレーションについて意見交換を行いました。



商店街内を視察

「レトロなまち」として知られる六角橋商店街においても、特に昭和の雰囲気の色濃く残す「ふれあい通り」を歩いて視察しました。

青果店「池上商店」の2階は、まるで昭和の街を再現した映画のセットのようです。

空き店舗を活用して、ライブや演奏会などを行う「六角橋レトロ劇場」からは、琴の音が流れていました。商店街のにぎわいをもたらすとともに、昭和レトロな街の雰囲気作りにも一役買っています。

